



フランス文化論

ケルト神話と 日本神話における 「国譲り」

講師：山内 淳

日本大学藝術学部・教授



12月18日(月) 13:00~14:30

会場：語学センター LL403B教室

* 本講演は後期開講「フランス文化論」(担当：国際学部・大場静枝)の授業の一環で開催します。受講者以外の方の聴講も歓迎します。

講義概要 :アイルランドの修道僧たちによって記録されてきたケルト神話には自ずと多神教と一神教の融合が見られるが、それはまた奇妙にも日本神話との類似性をも見せてくれる。その典型が「国譲り」である。日本神話においてこれは、高天原系の神々が出雲系の神々に対して葦原の中つ国つまり我が国の譲渡を迫ったエピソードであるが、ケルト神話のダーナの息子たち(ダーナ神族)とミールの息子たち(マイリージア)の戦いにおいても同じような「国譲り」の物語が見られる。共通するのは、争いに敗れ国を譲った敗者が、勝者から神として祀られ、最高の礼をもって遇されていることである。これは世界の神話において他に類を見ないものだと言われる。「国譲り」をキーワードに、同じく多神教の日本とケルトの神話を比較考察したい。